

## 日中翻訳における表現構造に関する考察

国立国語研究所外国人研究員 張 建華

### 0. はじめに

日本語と中国語は同じ漢字を用いているものの、基本的に違う言語構造を持つ言語である。このような異言語の間で、翻訳を行おうと思えば、いつも複雑な問題が絡み合い、そう容易なことではない。すなわち、両言語にはそれぞれ独自の特徴、例えば、独特の文法構造、表現形式などがあり、それらがそれぞれの言語の個性ある特徴を成しているの、文法構造、表現形式が平行して単純にそのまま対応することはない。

一方、両言語における発想の相違が存在することにより、同じ意味内容の表現はいつも同じ表現形式がなされるとは限らない。むしろそれぞれ別の表現形式をとることにより、独特な様相を呈することが多い。本稿ではこのような、日本語と中国語における構造、表現上の特性について探ってみる。

### 1. 語順

日本語と中国語では、語順においては、かなり異なる様相を呈する。

1. 1 日本語は助詞を持つ膠着言語で、述語が文末に、修飾語が被修飾語の前に表れるという決まりはあるが、主語や補語などは文中における位置がかなり自由である。一方、中国語は助詞もないし、語形変化もない言語なので、文の成分により、その文中に現れる位置がすべて厳しく決まっている。具体的に言えば、主語は文の頭に、述語は主語の後、補語の前に現れるのが普通である。もし時間、原因、目的、条件などの修飾語があれば、それが主語の前に現れる。これは述語が文末に、補語が述語の前に現れる日本語とは正反対になる。したがって、日本語を中国語に翻訳するとき、語順の並び換えが必要である。例えば、

(1) 橋の下を 川が 流れている。

(2) 河水 流经 桥下。

(3) 夏目漱石の『我が輩は猫である』を 読みました。

(4) 读了 夏目漱石写的 《我是猫》。

(1) は主語が補語の後に現れているので、中国語に訳すときは、(2) のように、主語を文の最初に持っていかなければ、中国語としては成り立たない。(3) については、(4) のように、述語を補語の前に置き換えなければならない。

1. 2 名詞連体修飾節においても、日本語と中国語は語順が違う。例えば、

(5) これは 経験から 得られた われわれの 概念である。

(6) 这是 我们 从实践中 得到的 观念。

(7) きれいな 西に沈みかけた 地平線の 夕日

(8) 地平线上 美丽的 西沉 夕阳。

中国語では名詞連体修飾節における語順は領属、時間、場所を表す連体修飾語が一番前に位置し、

数量詞をもつ連体修飾語はその次に、描写性連体修飾語は一番後になって、すなわち被修飾語の直前に現れるのである。したがって、(5)(7)の日本語の名詞連体修飾節の語順は、中国語に訳すると、(6)(8)のように並び換える必要がある。

## 2. 受動表現

受動表現についてみても、日本語と中国語には大きな相違があることがわかる。

2.1 日本語では受動表現がよく用いられるのに対し、中国語では主体が、出来事から好ましくない影響を被ることを表す場合以外は、受動表現は使われることが少なく、むしろ能動表現の方がよく用いられる。例えば、

- (9) 昨日帰りに雨に降られた。
- (10) 我昨天回家时被雨淋了。
- (11) 次郎は先生に叱られた。
- (12) 次郎被老师批评了一顿。

(9)と(11)は「私」「次郎」という主体がそれぞれ好ましくない影響を被られることを表し、いわゆる間接受動表現(迷惑の受け身とも呼ぶ)を持つ文である。この場合は、中国語では受動表現「被」によって対応する。しかし、直接受動表現の場合は、中国語では能動表現になることが多い。例えば、

- (13) 卓球の試合は桜の頃開かれる。
- (14) a 乒乓球比赛, 被在樱花季节举行。  
b 乒乓球比赛, 在樱花季节举行。
- (15) 最近, 老人問題が大きな関心がもたれています。
- (16) a 最近老人问题被社会极大关心。  
b 最近老人问题引起了社会的极大关心。
- (17) 奈良の町は、中国の長安という町を手本に造られた。
- (18) a 奈良的街道是被摹仿中国的长安街道而建造的。  
b 奈良的街道是摹仿中国的长安街道而建造的。

(13)(15)(17)の日本語の受動表現は、いずれも直接受動表現を表すものである。これらは、(14)(16)(18)aのように、中国語の受動表現に直訳すると、非常に不自然な中国語になってしまう。むしろ能動文に訳した方が中国語らしい表現になる。

2.2 しかし、逆に自動詞を用いる日本語の表現が、中国語では受動表現によって表されるようなことも少し見られる(日英訳の場合も同様な現象が起こるそうである。飛立如雲 1993 参照) 例えば、

- (19) 私は南極の大自然に感動した。
- (20) 我被南极的大自然景色所感动了。
- (21) 雨の音で目を覚ました。(岩波日中辞書)
- (22) 被雨声弄醒了。

以上で日本語と中国語における受動表現における対応は、実に複雑であることが言えよう。

## 3. 使役表現

3.1 日本語の使役表現については、中国語では使役形式によって対応することもある。例えば、

- (23) 侵略戦争は国民に巨大な苦難をなめさせた。
- (24) 侵略战争使国民饱受深重灾难。
- (25) 子どもにピアノを習わせる。(岩波日中辞書)
- (26) 让孩子学钢琴。
- (27) 君1人を行かせるわけにはいかない。(岩波日中辞書)
- (28) 不能叫你一个人去。

以上の例からわかるように、日本語の使役表現に対応する中国語は、いずれも「兼語句」という構文構造になっている。

また、中国語では「使、叫、让」というような使役表現を用いる場合、意味が曖昧になることがあるので、その時、具体的な動詞を使う方が中国語らしい表現になる。例えば、

(29) 課長は鈴木さんにその事件を調べさせた。

(30) 科长命令鈴木调查这个案子。

(31) 子供をすきなようにさせておく。

(32) 允许孩子自由活动。

3.2 しかし、日本語と中国語の使役表現の構造が異なるので、対応しない場合も少なくない。例えば、

(33) 義務教育を普及させる。

(34) 普及义务教育。

(35) 物価を安定させなければならない。

(36) 必须安定物价。

(37) 緊張した情勢を激化させた。

(38) 加剧了紧张局势。

(33)(35)(37)文の使用表現について、中国語は他動詞(及動物詞)によって表す。これは、日本語と中国語における自動詞(不及動物詞)と他動詞が一致しないことによる表現構造の相違である。つまり、中国語では他動詞が対応するような日本語の自動詞は、それが使役形式をとる場合、中国語では使役動詞にならず他動詞になってしまう。そのため、逆に日本語の他動詞が中国語では使役表現になることもある。例えば、

(39) 苦勞をかける。

(40) 使受累。

(41) 想像力を豊かに働かす。(岩波日中辞書)

(42) 让想像力自由驰骋。

(43) 君をあっと驚かすことがある。(岩波日中辞書)

(44) 可有让你大吃一惊的事。

#### 4. 名詞表現

名詞表現においては、日本語と中国語の間ではかなりずれが大きい。これは両語の文法構造、表現形式が異なるからであろう。次はこれについて具体的に見よう。

4.1 日本語の場合は、自己紹介、日常の挨拶などに名詞表現がよく使われている。例えば、

(45) 私は王林です。

(46) 我叫王林，请多关照。

(47) 今日はいいい天気ですね。

(48) 今天天气不错。

(49) これから食事ですか。

(50) 去吃饭吗？

これらの名詞表現は、日本語ではごく普通で、頻繁に使われる表現であるが、中国語においては動詞または形容詞で表現しなければならない。たとえば、(45)の「私は王林です」と(49)「食事ですか」の名詞文に対して、中国語ではそれぞれ(46)と(50)のように、「我叫王林」「去吃饭吗」というように動詞文で表し、(47)の「いい天気です」に対して、中国語は形容詞文「天气不错」のように表す。

4.2 場所、存在を表す場合においても、日本語ではよく名詞表現が用いられる。この場合は多少ニュアンスが変わるが、動詞文でも表せる。それにたいして、中国語では名詞表現は使えず、動詞でしか表すことはできない。例えば、

- ( 5 1 ) 図書館は二階です / 図書館は二階にあります。
- ( 5 2 ) 图书馆在二楼。
- ( 5 3 ) 鈴木さんは事務室です / 鈴木さんは事務室にいます。
- ( 5 4 ) 鈴木在办公室。

4.3 なお、日本語では頻繁に用いる体言締め文(角田太作 1996)は、中国語では動詞文(下線の部分) または形容詞文を使わないと、表現できない。例えば、

- ( 5 5 ) どんな困難があってもやり抜く覚悟だ。
- ( 5 6 ) 我决心不管有什么困难也要干到底。
- ( 5 7 ) 政府はこの法律を改正する意向である。
- ( 5 8 ) 政府打算修改这个法律。
- ( 5 9 ) 彼は仕事を人に押し付ける魂胆だ。
- ( 6 0 ) 他企图把工作推给别人。
- ( 6 1 ) わたしはやっと目標を達した感じです。
- ( 6 2 ) 我觉得终于达到了目标。

以上で見た日本語の体言締め文は、「覚悟がある、意向がある、魂胆がある、感じがある」などのように、動詞を用いても表現できるのに、わざと体言締め文を使用するのも、日本語の特徴だとも言えよう。以上の日本語の体言締め文については、中国語では動詞文でしか表せない。実例が少ないが、中国語では形容詞文になることもある。例えば、「堂々とした体格である」「複雑な心境だった」のような文は、名詞文ではあるが、形容詞文の性質を持っているので、中国語に訳すと形容詞文になる。

- ( 6 3 ) シスター・矢野は堂々とした体格である。(太郎物語・曾野綾子)
- ( 6 4 ) 修女矢野身材高大。
- ( 6 5 ) 彼はそれを聞いて複雑な心境だった。(岩波日中辞典)
- ( 6 6 ) 他听了这件事, 心情很复杂。

4.4 以下は動作名詞を用いる名詞文である。動作名詞は「する」をつけると、動詞になり、強い動作性を持つ名詞である。動作名詞を用いる名詞文は、動詞文と共通の性質を持っているので、中国語では動詞(下線の部分)をもって表現するほかはない。例えば、

- ( 6 7 ) 太郎は明日東京へ行く計画だ。
- ( 6 8 ) 太郎计划明天去东京。
- ( 6 9 ) 政府は明日、野党と話し合う段取り
- ( 7 0 ) 政府安排明天和在野党会谈。
- ( 7 1 ) 運動会は延期です。
- ( 7 2 ) 运动会延期了。
- ( 7 3 ) 僕は明日東京から出発だ。
- ( 7 4 ) 我明天从东京出发。
- ( 7 5 ) 午後から会議です。
- ( 7 6 ) 下午开会。
- ( 7 7 ) 父はわたしが外国へ行くことに賛成です。
- ( 7 8 ) 父亲同意我出国。

4.5 動詞の連用形名詞をもつ名詞文も、中国語では動詞文になる。例えば、

- ( 7 9 ) やっと調子がでたと思ったら、もう終わりだ。
- ( 8 0 ) 好不容易来了劲头儿, 事情却完了。
- ( 8 1 ) 原稿は書きかけた。
- ( 8 2 ) 稿子开始写了。
- ( 8 3 ) この子は母親に生き写しだ。(岩波日中辞書)
- ( 8 4 ) 这个孩子活像他母亲。

- ( 8 5 ) 上野方面は次の駅で乗り換えです。  
( 8 6 ) 去上野的旅客在下站换车。  
( 8 7 ) 後1か月で卒業だ。(岩波日中辞書)  
( 8 8 ) 再过一个月就毕业了。

以上にあげている動詞の連用形名詞による体言締め文も、中国語では動詞文になる。このように見ると、日本語の名詞表現が中国語では動詞表現で対応することが多いということはわかった。よく西欧語と日本語を比較して、西欧語は名詞中心の言語であり、日本語は動詞中心の言語であると言われるが、このように中国語と比べてみると、むしろ、日本語も名詞表現を好む言語ではないかと思われる。

## 5. おわりに

以上の通り、小稿は日中翻訳における表現構造について、いくつかの側面から大雑把な考察を行い、問題点を取り出した。これから、より詳しい考察、理論的な分析を行う必要がある。また、以上の問題については、表現構造だけでなく、統語構造からも考察を行う必要がある。これらは今後の研究課題にしたい。

付記：この研究は、文部省科学研究費（創成的基礎研究費）「国際社会における日本語についての総合的研究」（研究代表者 水谷修 課題番号：09 NP 0701）における研究班3中野チーム「計算機による表記・表現に関する実験的研究」の一環として、中国人学生の日本語作文における誤用を分析するために行ったものである。

## 参考文献

- 國廣哲彌編集(1982)『日英語比較講座 第4巻 発想と表現』大修館書店  
角田太作(1996)「体言締め文」『日本語文法の諸問題 高橋太郎先生古希記念論文集』ひつじ書房  
中野洋・張建華等(1997)「中国人の日本語文章における中国語の影響」『言語処理学会第3回年次大会発表論文集』言語処理学会  
飛立如雲・中野洋(1993)「英日・日英翻訳における統語構造の変換」『情報処理学会研究報告 93 NL 94』情報処理学会  
村木新次郎(1980)「日本語の機能動詞表現をめぐって」『国立国語研究所報告 65 研究報告集 2』国立国語研究所  
劉月華等(1983)『实用現代漢語語法』外語教学与研究出版社